

役所さんちの家計簿

～宇土市を一般家庭に例えたら～



市の決算をより身近に感じていただけるように、平成19年度の市の決算状況を、「役所さんちの家計簿」に例えてお知らせします。お父さんの給与を民間企業の平均給与の額と仮定し、市の財政を一般家庭の家計に置き換えて仮定の家計簿を作成しました。市の財政と一般家庭の家計では内容が違うので単純に比較はできませんが、難しそうと思わずにご覧ください。

役所さんちの家計簿

(カッコ内は、市の会計での項目)

役所さんちの収入			役所さんちの支出		
項目	H 19 年度	前年度比	項目	H 19 年度	前年度比
お父さんの給与	538 万 6 千円	▲ 7 万 3 千円	食費 (人件費)	123 万 7 千円	▲ 12 万 1 千円
基本給 (地方税)	198 万 5 千円	+ 15 万 8 千円	医療費や長女の学費 (扶助費)	131 万 5 千円	+ 5 万 3 千円
諸手当 (地方交付税、各種交付金、国県支出金)	340 万 1 千円	▲ 23 万 1 千円	ローンの返済 (公債費)	100 万 1 千円	▲ 4 万 5 千円
お母さんのパート収入 (使用料・手数料、分担金・負担金、諸収入)	49 万 3 千円	▲ 2 万 9 千円	生活雑費 (物件費)	51 万 8 千円	▲ 5 千円
その他臨時収入 (寄附金、財産収入)	8 千円	▲ 3 千円	家や庭の手入れ・修繕など (維持補修費)	5 万 2 千円	▲ 1 千円
ローンの借入 (地方債)	103 万円	+ 36 万 3 千円	家の増改築や家財道具購入 (普通建設事業費)	81 万 8 千円	▲ 13 万 3 千円
前年の残金 (繰越金)	5 万 8 千円	▲ 3 万 4 千円	地震・台風災害の応急処置 (災害復旧費)	1 万 8 千円	▲ 3 万 4 千円
貯金の引き出し (繰入金)	1 万 1 千円	▲ 8 万 4 千円	長男への仕送り (繰出金)	66 万 1 千円	+ 9 万 2 千円
合 計	698 万 6 千円	+ 14 万円	区費やサークル・会合への会費など (補助費等)	75 万 9 千円	▲ 3 万 8 千円
			貯金 (積立金)	3 千円	+ 2 千円
			株式投資 (投資及び出資金)	4 万 1 千円	▲ 12 万 7 千円
			合 計	642 万 3 千円	▲ 35 万 7 千円

宇土市の収支

市の歳入 (一般会計)			市の歳出 (一般会計)		
項目	H 19 年度	前年度比	項目	H 19 年度	前年度比
地方税	38 億 793 万 7 千円	+ 3 億 313 万 6 千円	人件費	23 億 7,161 万 7 千円	▲ 2 億 3,346 万 4 千円
地方交付税、各種交付金	45 億 8,062 万 7 千円	▲ 3 億 7,659 万 8 千円	扶助費	25 億 2,136 万 5 千円	+ 1 億 67 万 5 千円
国県支出金	19 億 4,341 万 6 千円	▲ 6,493 万 3 千円	公債費	19 億 2,037 万 4 千円	▲ 8,680 万 3 千円
使用料・手数料 分担金・負担金 諸収入	9 億 4,586 万 3 千円	▲ 5,461 万 6 千円	物件費	9 億 9,264 万 2 千円	▲ 1,081 万円
寄附金、財産収入	1,580 万 3 千円	▲ 499 万 5 千円	維持補修費	1 億 66 万 8 千円	▲ 187 万 9 千円
地方債	19 億 7,520 万円	+ 6 億 9,570 万円	普通建設事業費	15 億 6,958 万 7 千円	▲ 2 億 5,513 万 8 千円
繰越金	1 億 1,201 万 4 千円	▲ 6,514 万 3 千円	災害復旧費	3,380 万 3 千円	▲ 6,588 万 9 千円
繰入金	2 億 151 万 8 千円	▲ 1 億 5,975 万 9 千円	繰出金	12 億 6,802 万 5 千円	+ 1 億 7,748 万円
合 計	134 億 237 万 8 千円	+ 2 億 7,279 万 2 千円	補助費等	14 億 5,623 万 6 千円	▲ 7,162 万 8 千円
			積立金	537 万 5 千円	+ 257 万 5 千円
			投資及び出資金	7,942 万 7 千円	▲ 2 億 4,347 万 3 千円
			合 計	123 億 1,911 万 9 千円	▲ 6 億 8,835 万 4 千円

※市の歳入歳出は端数処理のため計が一致しない場合があります。

収入の状況は 役所さんち全体で14万円増加しました

◆お父さんの給料が7万3千円減少しました。

市の歳入項目…地方税・地方交付金及び各種交付金・国県支出金

税源移譲により個人市民税が約2億7,900万円増加しましたが、反対に地方譲与税と地方特例交付金が合わせて約3億2,900万円減少しました。



◆ローンの借入は36万3千円増加しました。

市の歳入項目…地方債（お金の借り入れ）

地方債借入額は、約6億9,500万円増加しましたが、そのうち6億円は、後年度に貸付先の企業から市へ全額返済される地域総合整備資金貸付事業債です。市では、毎年度の起債の借入額を償還額以下に抑え、将来の負担を軽減するよう取り組んでいます。

支出の状況は 支出は大幅に抑制しました

◆ローンの返済額が4万5千円減少しました。

市の歳出項目…公債費（借金の返済金）

返済額は、平成18年度に比べ約8,680万円減少しました。過去に行った普通建設事業の借金（起債）の返済額がピークを過ぎたため、今後も減少する見込みです。また、将来の財政負担軽減のため約1億4,100万円の繰上償還（返済）を行いました。

◆日常生活に必要な生活雑費を5千円削減しました。

市の歳出項目…物件費（賃金、旅費、交際費、需用費など消費的性質をもつ経費）

平成16年11月に策定した財政健全化推進プランの取り組みを進めており、物件費は約1,080万円減少しています。



◆食糧費は12万1千円減少しました。

市の歳出項目…人件費（市議会議員や職員の給与・退職金など）

人件費が平成18年度に比べ約2億3,300万円減少しています。平成19年度は、平成18年度に比べ退職者が少なく、退職金が減少しました。また、職員給は職員数削減により約5,700万円減少しています。

◆医療費、長女の学費が5万3千円増加しました。

市の歳出項目…扶助費（社会福祉充実のための費用）

扶助費は、約1億円増加しました。主な要因は、児童手当の増加などです。扶助費は毎年増加傾向にあり、この伸びは今後も継続するものと予測しています。



◆家の増改築や家財道具の購入費用が13万3千円減少しました。

市の歳出項目…普通建設事業費（道路など公共施設などの整備に要する費用）

スポーツ施設などのリニューアル事業などを行った平成18年度と比較して約2億5,500万円減少しています。

◆地震・台風発生時の家の応急処置費が3万4千円減少しました。

市の歳出項目…災害復旧費（異常な自然現象等による被災の復旧に要する経費）

平成18年度と比べて集中豪雨などによる被害が少なかったため、約6,600万円減少しました。

家計の収支は 平成19年度の役所さんちの家計は56万3千円の黒字でした

◆平成18年度と比べて収入は14万円増加しました。

◆平成18年度と比べて支出は35万7千円抑制しました。

よくある質問 みなさんからよくお尋ねがあることについてお答えします



Q 「財政再生団体」という言葉を聞くけど、宇土市は大丈夫なの？

A 財政再生団体とは財政状況の悪化により国の管理下で財政再建を進める団体のことで、市が行う事業に大幅な制限が出てきます。

市町村が財政再生団体となる指標（健全化判断比率）は、「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4つです。宇土市の平成19年度決算では4つの指標のいずれも基準内となっています。今後も計画的な財政運営を行うことで、直ちに財政再生団体になるということはありません。

よくある質問 みなさんからよくお尋ねがあることについてお答えします



Q 宇土市の財政健全化はすすんでいるの？ 今後はどうなるの？

A 本市の財政状況は平成16年からの三位一体の改革により非常に厳しい状態となりましたので、宇土市財政健全化推進プランを策定し、さまざまな取り組みを行ってきました。その結果、平成19年度決算では平成15年度に比べて約5億900万円の改善効果があったと試算しています。

また、自治体の財政状況を図る“ものさし”としていくつかの財政指標がありますが、「経常収支比率」と「実質公債費比率」について現在の状況を説明します。

経常収支比率…95.1% (H18) から 94.9% (H19) へ 0.2ポイント良くなりました。

市が自由に使いみちを決めることができる一般財源（市税、地方交付税等）を、経常的に支出しなければならない経費（人件費、扶助費、公債費等）にどれくらい充てているかという割合になります。この割合が低くなるほど、他の経費に回す財源に余裕があり財政的に良好な状態といえます。数値は2年続けて良くなっており、今後も改善傾向と見込んでいます。

実質公債費比率…18.7% (H18) から 17.2% (H19) へ 1.5ポイント良くなりました。

市の歳入に対する借金返済額（公債費）の比率を示すもので、特別会計での借金返済に対する一般会計からの支出なども算定に加えており、この割合が上昇すると、借金の返済に追われた財政運営であるといえます。今後、市債（借金）残高は減少していく予定であり、実質公債費比率の数値も改善傾向と見込んでいます。

市では、今後も財政健全化推進プランの取り組みを継続することで、引き続き、健全化に努めていくこととしていますので市民の皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

財政健全化推進プランの取り組み

平成16年11月から財政健全化推進プランの取り組みを進めていますが、平成19年度決算では、平成15年度と比べて歳入・歳出合わせて約5億900万円の改善効果がありました。

歳入面での取り組みと効果額

財政健全化推進プランの取り組み	効果額
市税・使用料等の徴収率向上	1,800万円増加
市有財産の有効活用	500万円増加
受益者負担金の見直し	400万円減少
合計	1,900万円増加

歳出面での取り組みと効果額

財政健全化推進プランの取り組み	効果額
職員数の削減	1億2,500万円削減
特別会計繰出金の抑制	1億2,200万円削減
市単独補助金の見直し	9,900万円削減
効果的な外部委託	6,800万円削減
内部管理経費の削減	5,200万円削減
職員給等の見直し	2,500万円削減
市議会経費の見直し	500万円削減
投資的経費（公共事業）の縮減	600万円増加
合計	4億9,000万円削減

特別会計の決算状況

一般の歳入歳出と切り離して経理している特別会計の決算状況です。

会計区分	19年度決算	対前年度伸率	会計区分	19年度決算	対前年度伸率
国民健康保険 特別会計	歳入	45億4,466万3千円 11.3%	老人保健医療 特別会計	歳入	39億9,960万1千円 2.1%
	歳出	45億4,413万2千円 11.4%		歳出	39億9,960万1千円 2.1%
簡易水道事業 特別会計	歳入	1億2,158万9千円 0.9%	介護保険 特別会計	歳入	23億9,516万4千円 1.5%
	歳出	1億2,158万9千円 1.1%		歳出	22億9,044万9千円 0.1%
奨学基金 特別会計	歳入	163万7千円 ▲62.2%	漁業集落排水施設 整備事業特別会計	歳入	9,305万7千円 9.2%
	歳出	163万7千円 ▲62.2%		歳出	8,812万1千円 4.4%
公共下水道事業 特別会計	歳入	15億2,313万2千円 28.9%			
	歳出	15億210万7千円 29.8%			

大きな増減（前年度比10%以上）があった特別会計の決算概要は次のとおりです。

国民健康保険…歳入では、国民健康保険税収の増加、歳出では、保険給付費が増加しています。

奨学基金…300万円の寄附金を奨学基金（貯金）に積み立てた平成18年度に比べ、平成19年度は歳入・歳出ともに減少しています。

公共下水道事業…歳入では、一般会計からの繰入金増加、歳出では、公債費が増加しています。これは、将来の負担を軽減する目的で実施した繰上償還が影響しています。